



学校と地域のつながり

市内全小中学校でコミュニティスクールの導入へ
牛久市教育委員会では、平成30年度末までに市内全小中学校にコミュニティスクールの導入を目指しています。

コミュニティスクールとは、学校運営協議会が設置された学校のこと。学校運営協議会では、学校運営での地域の応援団として校長が持つ教育のビジョンを共有し、現状や課題を把握しながら、連携・協働して学校運営にあたります。また、そこで協議された内容を実行するときは、その中心となって共に汗をかく役割が求められます。今後コミュニティスクールの導入は、市町村における努力義務とされています。

すでに平成29年3月から奥野地区の奥野小学校と牛久第二中学校、通称「おくのキャンパス」において他校に先駆けてコミュニティスクールを導入しました。

昨年10月、「おくのキャンパス」ではコミュニティスクールの仕組みを利用し、オレンジ市か



▲「おくのキャンパス」の学校運営協議会。学校と連携・協働で子どもたちの成長を見守ります

ら中学生訪問団の受け入れの際は、地元ボランティアの方々の手料理による「おもてなし」が行われました。

今年度は、4月から牛久第一中学校で導入し、5月には岡田小学校で導入を開始します。今後も牛久市はコミュニティスクールを通して学校と地域住民と協働し子どもたちの成長を支え、牛久市を担う人材が育つことを期待しています。



ごみ減量化に向けて

牛久市廃棄物減量等推進審議会から答申



3月26日、牛久市廃棄物減量等推進審議会(代表小野宏哉会長)が牛久市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の見直しなどの内容について根本市長に答申を行いました。この審議会は、市民代表や学識経験者、各種団体代表者で構成され、平成28年1月に市から諮問を受け、ごみの減量化と適正な処理・処分について、計7回に渡り審議を行ってきました。市では答申の内容を生かし、さらなるごみの減量、資源物とごみ分別に向けて取り組んでいきます。

BDF燃料の安定供給を目指す

牛久市バイオディーゼル燃料連絡協議会設立

市は平成25年にバイオマス産業都市^{※1}の認定を受け、地域循環型社会の構築、地球温暖化防止及び地産地消の取り組みを実施しています。この度、主要事業の一つであるバイオディーゼル燃料(BDF)^{※2}製造事業の安定した原料の確保、製品の流通の拡大を図るため、2月15日に牛久市バイオディーゼル燃料連絡協議会を設立しました。今後はこの協議会を活用し、廃食用油の回収、BDFの販売の拡大を目指します。

※1 地域の特色を活かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強いまち・むらづくりを目指す地域。

※2 Bio-diesel Fuelの略。植物の油脂等の再生可能な資源から作られる軽油代替燃料。





自慢の歌声を全国へ届けます

NHKのど自慢を開催

3月25日、牛久中央生涯学習センターで「NHKのど自慢」が開催されました。当日は250組の予選参加者から選ばれた20組の皆さんが大勢の観覧者の前で自慢の歌声を披露しました。ゲストは天童よしみさんとモーニング娘。'18さんを迎え、それぞれの出演者へ温かい応援のコメントをいただきました。



交通安全を呼び掛ける

春の全国交通安全運動

4月5日、春の全国交通安全運動街頭キャンペーンが行われ、根本市長や東洋大学附属牛久高等学校の生徒たちが運転者に啓発品を配布しました。また、4月6日には今泉武さん(市内在住)が社会貢献のためにと筑波山で作った交通安全のお守りを100個、歩行者に配布し、交通安全を呼び掛けました。



▲運転者一人ひとりに交通安全を呼び掛けました
▶ 歩行者にお守りを配る今泉さん(写真右)

期待に胸膨らむ、春

市内各幼稚園、小中学校で入学式

4月9日、市内公立小中学校で入学式が行われ、小学1年生736人、中学1年生697人が入学。また、4月11日には公立幼稚園でも入園式が行われ42人が入園しました。新入生、新入園児たちは家族や先生、上級生に見守られながら、これから始まる新しい生活に向けて元気よく一歩を踏み出しました。



名前を呼ばれ、元気よく「はい」(写真は牛久第一幼稚園)

牛久の歴史を描く、大名行列図巻

牛久藩大名行列図巻、市指定文化財へ



うしくはんだいまようぎょうれつずかん

牛久市教育委員会は、「牛久藩大名行列図巻」を新たに市指定文化財(歴史資料)に指定しました。牛久藩は江戸時代、山口家が約270年の長きに渡り統治した1万石余りの藩です。この資料は藩主の山口家に伝来したもので、藩主の乗り物を中心に人物、馬、道具などが描かれ、さらに人物は身分や役割が記されています。江戸時代の約300藩の中でも大名行列図が現存する藩は少なく、特に牛久藩のような小藩のものは全国的にも稀であり、牛久の歴史を知る上で大変貴重な資料です。

今後、秋ごろ開催の展覧会で図巻の一部を公開する予定です。(上記写真は図巻の一部です)

災害時にラジオから情報を提供

茨城放送IBSラジオと災害協定締結

3月27日、市は(株)茨城放送と「災害時における放送要請に関する協定」を締結しました。これにより、市は災害が発生した際に、(株)茨城放送に対し容易に放送要請ができ、適時の災害放送が可能となりました。(株)茨城放送代表取締役の北島重司さんは「いざというときの大切な情報を届ける役割を担っていきたい」と話し、根本市長もまた、「私も日ごろからラジオからの情報配信の重要性を感じている。連携を図り、大切な情報を提供できれば」と話しました。



寄付 温かい善意 ありがとうございます

●小学校新一年生へ防犯ブザー寄贈

常陽銀行牛久支店から、市内小学校の新1年生のために、防犯ブザー810個が寄贈されました。これは、地域貢献活動の一環として平成17年から毎年寄贈していただいているもので、今年で14回目。根本市長が「子どもたちも防犯ブザーがあると安心する」と話すと、常陽銀行牛久支店の荒井支店長は「使われないことが一番いいが、抑止力として少しでも子どもたちの安全に繋がれば」と話しました。



市内在住男性飲食店で人命救助

稲敷広域消防本部から消防協力者表彰

3月27日、牛久消防署で消防協力者表彰式が行われ、茂木洋介さん(市内在住)へ感謝状が澁谷消防長から贈呈されました。この表彰は2月22日に市内飲食店で82歳男性が食事中に意識不明になった際に、同店舗に居合わせた茂木さんが心臓マッサージを行い、人命救助を行ったことに対し、贈られたものです。茂木さんは「自分がこのような場に居合わせることになるとは思わなかった。男性が助かって良かった」と話していました。

